

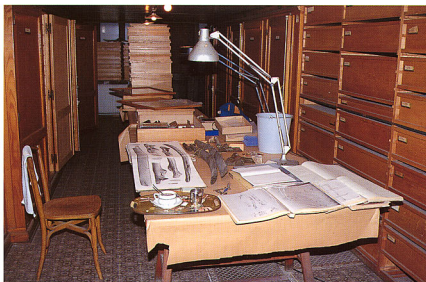
自然史博物館の収蔵庫と標本の利用 2 —ブリュッセルとロンドン—

自然史博物館は、異なった産地の標本を11ヶ所で比較する場である。一般来館者は展示室でたくさんの標本を概観して比較し、研究者はそれぞれの専門分野の収蔵標本の詳細な比較検討を進める。収蔵庫には、専門分野が異なればほとんど目にする機会のない重要標本が、安全かつ利用しやすく保管されている。

〈岩手県立博物館 大石雅之〉



1. ベルギー王立自然科学研究所(ブリュッセル)。ベルニサル鉱山の恐竜イグアノドンが展示されていることで有名。正面玄関で木彫のイグアノドンが迎える。展示室のイグアノドン復元骨格は従来どおりだが、新しいスタイルのイグアノドンの復元が付け加わり、たくさんの脊椎動物化石が展示されていたホールは数年前から恐竜の動刻の展示に置き換えられている。



2. 収蔵庫で標本の比較研究を行う(ベルギー王立自然科学研究所)。地階の収蔵庫。この一角には、130年ほど前にアントワープの新第三系から発掘されたおびただしい量の鯨類化石が保管されている。外来研究者のための研究用スペースが用意された(Courtesy of Department of Paleontology, Royal Belgian Institute of Natural Sciences)。

3. ロンドン自然史博物館のサポート・サービス・ディヴィジョンの収蔵庫(ロンドン・ワンズワース地区)。ロンドン自然史博物館の大型の収蔵標本は、数年前にサウスケンジントンの自然史博物館の本館からテムズ川南岸のワンズワース地区の収蔵施設に移された。この収蔵エリアには、多数の大型鯨類の骨格標本が整然と並べられて保管されている。1850年代のラベルもみられる(Photo used by permission of the Natural History Museum, London)。

